

2014  
Vol. 21  
THE BSSC JOURNAL  
通巻21号 2014年7月10日発行



びわこ成蹊スポーツ大学新聞 Biwako Seikei Sport College  
**THE BSSC JOURNAL**

びわこ成蹊スポーツ大学の「今」を伝える ©びわこ成蹊スポーツ大学新聞編集部 発行=びわこ成蹊スポーツ大学メディア研究会 〒520-0503 大津市北比良1204番地 <http://www.bsscjournal.net/>



**水球女子の日本代表**  
**森翼**  
**梅田**も代表入り

大学院1年の森翼が、水球女子の日本代表チームに入り、5月19日から25日まで米カリフォルニア州ロサンゼルス近郊で開かれたワールドリーグのインターコンチネンタルトーナメントに出場した。8チーム中6位で、ワールドリーグ決勝大会は惜しくも逃したが、6試合で6得点を奪う活躍だった。また競技スポーツ学科3年の梅田優子もGKとして日本代表入りを果たした。

森は柏陵高(福岡)で水球を始め、U-18日本代表に選出された。本学でも順調に成長し、昨年はロシアで開催されたユニバーシアードの代表選手となり、今年に入ってワールド代表のメンバーとなった。

インターコンチネンタルトーナメントは、欧州以外のワールドリーグ決勝大会出場チームを決めるもの。1次リーグではロンドン五輪金メダルの米国に5-14で敗れ、カナダにも負けて2連敗となった。

**日本代表で奮戦**  
**水球女子の**  
**森翼**  
**梅田**も代表入り

が、カザフスタンを7-7からのPS戦で4-3と下した。準々決勝で日本代表は中国に8-9で競り負け、5-8位決定戦に回った。回予備戦ではベネズエラに18-5と大勝したが、勝てばワールドリーグ決勝大会出場が決まる5、6位決定戦でブラジルに7-7からのPS戦を3-4で敗れて、決勝大会出場を逃した。サウスポールの森は、米国歌で得点するなど、強豪国の選手にも引けを取らないプレーぶりだった。「世界一の米国のGKから得点できた。目標は、フル代表に入って得点を決めることだった。思った以上にやれたし、自信になったという。それでも大事な一戦、ブラジル戦ではPSが決まらなかつた。「シューターとして信頼されたのに...。1点



代表ウェアでにっこり笑う森翼(右)と梅田優子(左)



**混成競技の日本ジュニア陸上競技**  
**黒田の成績**

w(wind assist) : 追風参考

1日目		2日目	
種目	記録	種目	記録
100m	11.19	110mH	15.62
走幅跳	w6.85	円盤投	28.73
砲丸投	10.31	棒高跳	2.80
走高跳	1.80	やり投	48.26
400m	49.49	1500m	4:32.22

混成競技の日本ジュニア陸上選手権は5月31日、6月1日に長野市宮原上競技場で行われ、十種競技で1年生の黒田貴絵が6038.4点で堂々の3位に入った。藤枝明誠高出身の黒田は、けがなどもあって全国高校総体(インターハイ)の出場経験こそないが、バネがあり、短距離を得意とする逸材。1日目の400mで49秒49を記録するなど、3566点でトップに立った。

それでも本人は「走り幅跳びでもう少し記録を出したかった」と振り返る。2日目は棒高跳びが2m80に終わって得点が伸び悩み、円盤投げでもミスが出た。終わってみれば、優勝者とは194点差の3位。黒田は「優勝を狙っていた。3位は最低限の結果かな」という。好成績にも満足していないところが、逆に頼もしい。

中学では野球をやり、高校からは陸上を本格的に始めた。「十種競技はいろいろな種目がやれて楽しい。2日間ずっと一緒にライバルが仲良くなり、支え合うのもいいですね」とその魅力を語る黒田。また1年生だけに前途洋々で、「3、4年生で日本インカレ3位以内に入りたい。できれば優勝したいです」と大きな目標を掲げた。

**混成競技の日本ジュニア陸上選手権**  
**黒田**が  
**堂々の3位**

# 関西学生サッカーリーグ 総合力でつないだ

# 5連勝

### 前期結果(第9節終了時点)

節	月日	対戦相手	得点	対戦相手
第1節	4月6日	びわこ成蹊スポーツ大	3 0-2 3-4	桃山学院大

得点者:久保賢悟、曾根田稷、熊田克斗

節	月日	対戦相手	得点	対戦相手
第2節	4月12日	びわこ成蹊スポーツ大	2 1-1 1-0	大阪学院大

得点者:加藤大樹、久保賢悟

節	月日	対戦相手	得点	対戦相手
第3節	4月19日	びわこ成蹊スポーツ大	1 0-0 1-0	関西大

得点者:久保賢悟

節	月日	対戦相手	得点	対戦相手
第4節	4月26日	びわこ成蹊スポーツ大	5 3-1 2-0	大阪教育大

得点者:久保賢悟(2)、曾根田稷(2)、阪口優介

節	月日	対戦相手	得点	対戦相手
第5節	5月3日	びわこ成蹊スポーツ大	2 2-1 0-0	同志社大

得点者:三輪優平、金田祐羽

節	月日	対戦相手	得点	対戦相手
第6節	5月6日	びわこ成蹊スポーツ大	2 0-0 2-1	立命館大

得点者:久保賢悟、曾根田稷

節	月日	対戦相手	得点	対戦相手
第7節	5月10日	びわこ成蹊スポーツ大	1 1-1 0-0	京都産業大

得点者:曾根田稷

節	月日	対戦相手	得点	対戦相手
第8節	6月15日	びわこ成蹊スポーツ大	4 2-1 2-3	大阪体育大

得点者:曾根田稷(2)、加藤大樹、嘉茂良悟

節	月日	対戦相手	得点	対戦相手
第9節	6月21日	びわこ成蹊スポーツ大	2 1-1 1-1	関西学院大

得点者:熊田克斗、嘉茂良悟



第1節の桃山大戦ではDの宮大樹、FWの熊田克斗から1年生を抜擢した。セ

ットプレーからの失点で3-1ができた」と手ごたえをつかんだ。続く第2節からは3、4年生主体で戦い、FW久保賢悟の決勝点で大院大に2-1と競り勝つと、第3節でも久保のシュートで1-0の勝利を収めた。

勢いに乗るチームは、第4節では大院大に18本のシュートを浴びせ、久保と曾根田稷の各々得点などで5-1と圧勝。第5節は同大に2-1で勝ち、第6節でも立命館大に勝って5連勝した。

望月監督は「実力では真ん中より下のチーム。総合力と連係で失点を防いでいる」といい、「3、4年生の必死さと若い選手がうまくかみ合っている」と分析している。リーグ戦が再開される8月末までの課題を同監督は「攻撃力をもっとつけること」と語ってくれた。全日本大学サッカー選手権出場資格の上位4チームへ入るという目標へ向け、一丸となって戦う。



サッカー部は関西学生リーグでことしも上位争いに加わっている。前期の第9節を終了して5勝3分け1敗の勝ち点18。首位の阪南大が勝ち点25、2位の関学大は勝ち点21。3強の一角を占め、4位に勝ち点4差をつけている。

### 2014年度 第92回 関西学生サッカーリーグ (前期) 勝敗表

※( )内は前半の得点

第9節 終了時点

順位	大体大	阪南大	関学大	関西大	びわスポ大	大産大	大院大	桃山大	京産大	立命大	大教大	同大	勝	負	分	得点	失点	得失差	勝点
6	大体大			3-0 (0-0)	4-4 (1-2)	3-3 (0-1)	3-1 (2-0)	2-3 (0-2)	2-0 (1-0)	1-2 (0-0)	1-1 (0-1)	2-2 (2-2)	3	2	4	21	16	5	13
1	阪南大		2-2 (1-1)	2-0 (0-0)		5-0 (1-0)	3-2 (2-0)	9-1 (3-1)	3-1 (1-0)	3-0 (2-0)	4-0 (0-0)	12-1 (6-1)	8	0	1	43	7	36	25
2	関学大			2-2 (1-1)	2-0 (1-0)	2-1 (0-0)	7-4 (2-2)	4-1 (2-0)	1-1 (0-0)	4-0 (2-0)	3-1 (1-0)		6	0	3	27	12	15	21
9	関西大	0-3 (0-0)	0-2 (0-0)		0-1 (0-0)	3-0 (0-0)		1-2 (1-0)	0-1 (0-0)	0-2 (0-2)	0-0 (0-0)	4-0 (1-0)	2	6	1	8	11	-3	7
3	びわスポ大	4-4 (2-1)		2-2 (1-1)	1-0 (0-0)		2-1 (1-1)	3-6 (0-2)	1-1 (1-1)	2-1 (0-0)	5-1 (3-1)	2-1 (2-1)	5	1	3	22	17	5	18
5	大産大	3-3 (1-0)	0-5 (0-1)	0-2 (0-1)	0-3 (0-0)		0-0 (0-0)	3-1 (3-1)		1-0 (1-0)	2-1 (0-1)	2-1 (1-0)	4	3	2	11	16	-5	14
10	大院大	1-3 (0-2)	2-3 (0-2)	1-2 (0-0)		1-2 (1-1)	0-0 (0-0)		1-1 (0-0)	0-4 (0-2)	1-1 (0-0)	4-0 (2-0)	1	5	3	11	16	-5	6
7	桃山大	3-2 (2-0)	1-9 (1-3)	4-7 (2-2)	2-1 (0-1)	6-3 (2-0)	1-3 (1-3)		1-3 (1-1)	5-0 (3-0)		1-2 (0-1)	4	5	0	24	30	-6	12
4	京産大	0-2 (0-1)	1-3 (0-1)	1-4 (0-2)	1-0 (0-0)	1-1 (1-1)		1-1 (0-0)	3-1 (1-1)		2-1 (1-0)	1-0 (0-0)	4	3	2	11	13	-2	14
8	立命大	2-1 (0-0)	0-3 (0-2)	1-1 (0-0)	2-0 (2-0)	1-2 (0-0)	0-1 (0-1)	4-0 (2-0)	0-5 (0-3)		0-1 (0-1)		3	5	1	10	14	-4	10
11	大教大	1-1 (1-0)	0-4 (0-0)	0-4 (0-2)	0-0 (0-0)	1-5 (1-3)	1-2 (1-0)	1-1 (0-0)		1-2 (0-1)	1-0 (1-0)		1	5	3	6	19	-13	6
12	同大	2-2 (2-2)	1-12 (1-6)	1-3 (0-1)	0-4 (0-1)	1-2 (1-2)	1-2 (0-1)	0-4 (0-2)	2-1 (1-0)	0-1 (0-0)			1	7	1	8	31	-23	4



## 女子柔道部 快挙だ! 3連覇

2回戦は大阪府立大に3-0で快勝、準決勝の関大は昨年が続いて芦屋大との戦は1-0で勝った。決勝の中村がおり(コーチングコース4年)と中堅の治田千絵(コーチングコース3年)が勝って大会3連覇を決めた。

対戦となったが、先鋒の中村がおり(コーチングコース4年)と中堅の治田千絵(コーチングコース3年)が勝って大会3連覇を決めた。

主将としてチームを引っ張った中村は、「どんな大会でも3連覇するということは難しい。今回の優勝は過去2回より、中身の濃いものだった。女子柔道部は部員が4人しかおらず、プレッシャーを個々が背負った。1週間前には人が2人も出たが、部員はきっちり試合で役割を果たしてくれた」と、感激の面持ちだった。

柔道の第22回関西学生女子優勝大会は5月25日、兵庫県尼崎市のベイコム総合体育館で行われ、3人制に出場したびわこ成蹊スポーツ大学は決勝で芦屋大に2-1で勝って3年連続3回目の優勝を果たした。

### 第22回 関西学生女子柔道優勝大会

◇決勝	びわこ成蹊スポーツ大	2-1	芦屋大
先鋒	○中村	払い腰	服部
中堅	○治田	合わせ技	杉本
大将	○中原	内股	○桜井



# 悔しい連敗 期待起りに

第2節の成美大は、2回戦とも小差の競り合いをものにして連勝し、勝ち点を奪った。続く第3節では大谷大との1回戦を0-3で敗れたが、2回戦は4-2で競り勝ち、3回戦は打線の奮起で7-0と圧勝し、二つ目の勝ち点を挙げた。投手陣の調整不足が心配されたが、序盤はうまく滑り出した。

第5節はいよいよ佛教大戦。ともに勝ち点2で、ここで勝ち点を奪えば優勝に大きく前進するところだったが、1回戦に2-3で競り負けると、2回戦も1-3で敗れた。勢いに乗った佛教大が勝ち点5の完全優勝を遂げたわけだから、何とも悔しい連敗となった。意気消沈した第6節では京都学園大にあっさり



京滋大学野球1部の春季リーグ戦は3月29日から5月24日まで行われ、硬式野球部は5勝7敗2分け、勝ち点2で4位に終わった。

## 平成26年度 京滋大学野球1部リーグ 春季リーグ戦 勝敗表

順位		佛教大	京都学園大	大谷大	びわスポ大	成美大	京教大	勝点	勝率
1	佛教大		○●○	●○○	○○	△○△△○	○○	5	0.833
2	京都学園大	●○●		○△○	○○	●●	○○	3	0.636
3	大谷大	○●●	●△●		○●●	○○	●○○	2	0.462
4	びわスポ大	●●	●●	●○○		○○	△○△●●	2	0.417
5	成美大	△●△△●	○○	●●	●●		○○	2	0.400
6	京教大	●●	●●	○●●	△●△○○	●●		1	0.250

## 第91回 関西学生陸上競技 対校選手権大会

男子1部

順位	学校名	総合得点
1位	関西学院大	195点
2位	大阪体育大	105点
3位	立命館大	96点
4位	京都産業大	82点
5位	京都大	77点
6位	関西大	59.5点
7位	近畿大	52点
8位	大阪教育大	50点
9位	同志社大	38.25点
10位	びわスポ大	38点
11位	龍谷大	35点
12位	摂南大	23.25点

### 主な決勝記録

名前(学年)	種目	記録	順位
森 省太(3)	200m	21秒68	8位
青木 亮澄(4)	800m	1分58秒57	8位
佐保 一輝(4)	10000m	30分37秒72	5位
村上 眞生(4)	110m障害	14秒28	5位
石田 研摩(4)	10000m競歩	41分53秒20	2位
菅浪 裕也(1)		42分49秒72	5位
田中 拓心(4)		46分09秒92	8位
河上 孝明(4)			
森 省太(3)	4×100m	40秒99	7位
西田 顕平(4)			
村上 眞生(4)			
松本 瑞生(4)	走高跳	2m00	6位
千賀 拓(2)		1m95	7位
嶋崎 吉孝(1)	棒高跳	4m80	5位
板東 歡揮(2)		4m60	6位
加藤 諒(4)		4m60	6位

# 競り部を死守

競り部は、最後の最後まで死守した。最後の学生が奮闘してくれた。ただ、本来の力が発揮できず、悔しい。課題を残した」と書き返しを誓っていた。

## 男子陸上 女子陸上

陸上の第91回関西学生対校選手権大会は5月7日から4日間、大阪・ヤンマースタジアム長居で行われ、男子は38点を挙げて総合10位に食い込み、1部を死守した。2部降格の11位とのポイント差はわずか3点だった。

短距離や投てき種目で思うように得点できず、3日目までは苦しい展開だった。それでも最終日の男子1万m競歩で12点をマークしたのが大きく、棒高跳びでも9点を奪ってライバルチームに競り勝った。



この企画は、各大学の学生が仲間のアスリートを取り上げるもの。写真取材と記事執筆はチームメイトで、スポーツ・ジャーナリズムを専攻する木下美里(4年)が受け持った。2人の写真は表情をよくとらえ、大きく掲載されている。

陸上部の谷本咲輝子と木村斗子(ともに4年)がスポーツ報知の関西スポーツランド「Campus」の女神「関西の美女アスリート」に紹介され、それぞれ紙面を飾った。

(谷本は4月28日付、木村は5月26日付。)

# スポーツ紙を飾りました!

毎年恒例の

# フレッツマンキャンプ

「どんな人たちがいるの  
だろう。友達になれるかな。  
でも頑張ってみるか」。そんな不安と期待を胸に抱いて  
始まった2014年度フレ

ツシユマンキャンプは、3  
51人が参加。びわこ成蹊  
スポーツ大学に入学してき  
た新入生の目は輝きに満ち  
あふれていた。

# 開催



その日に会ったばかりの仲間と寝食を共にし、時には仲間との協力なしでは乗り越えられないような大きな壁にも直面する。食事も自分たちで作らなければ食べることはできない薪を使った自炊だ。そして寝る時は7、8人が一つテントの中で眠りにつく。初めは気を使い合うものの、徐々によそよそしかった雰囲気が変化していくのが手に取るように分かる。自然の中で

共存するとはそういうことなのかもしれない。「野性の森」での仲間作り野外ゲームや、雪の残る広大な比良山系で、仲間と協力し、声を掛け合った1214mの武奈ヶ岳登山。初日はまだ高校生のような雰囲気だった学生も比良の自然に刺激され、最終日には見違えるほどのりしさが見えた。これからの学生生活が大いに期待される。



目指せ 日本代表

## 濱田英莉の

2016年に行われるリオデジャネイロ五輪から正式競技に選ばれた7人制ラグビーで濱田英莉(地域スポーツコース4年)が、日本代表を目指して頑張っている。本学ラグビー部に所属しながら、女子7人制クラブ「ラグビーセブン」のメンバーとして大会に参加している。



# 挑戦

## びわこ成蹊スポーツ大学

〒520-0503 大津市北比良1204番地  
【代表】TEL:077-596-8410 FAX:077-596-8419 E-mail:jim@bss.ac.jp



JR比良駅から線路沿いに徒歩約15分。JR京都駅よりJR比良駅まで約40分。